

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良く なっている	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・9月の前半は残暑が続いたが、このところの急な冷え込みでウォームピズ関連の商品が動き出している。また大型催事ではダイレクトメールの効果でブランド品の売上が非常に増加している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・前年の9月はたばこの値上げで売上がものすごく伸びた時期である。今月の売上は前年の80%であるが、来客数は前年と同じなので、たばこを除けば前年より来客数は増加している。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・春に延期になったイベントが秋に開催され、来客数が増加している。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・気温の低下に伴って秋物関連商材が迅速に動いている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・残暑が厳しかったこともあり、冷たい飲み物を中心に、割と販売が増えている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・3か月前は東日本大震災の影響で、家計を引き締めていた状態があったが、このところいつもと変わらない購入になってきたので、3か月前と比べれば良くなっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・来客数は前年比でかなり落ち込んでいるが、上期の締め又は決算等のため、販売量が東日本大震災の影響があったことと比べて増加している。
		旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・東日本大震災の発生以降、大分時間がたち、客の動きがかなり活発になっている。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・東日本大震災後の景気低迷がやっと底を打った。微弱ながらもグラフィック、ウェブ等の発注量に変化がみられる。
		遊園地（職員）	来客数の動き	・東日本大震災の影響が残る3か月前に比べ、来客数の動きは回復傾向にある。レジャーへの出控え傾向は継続しているが、前年実績並みに戻りつつある。
		ゴルフ場（業務担当）	販売量の動き	・3月の東日本大震災後初めて8月が前年並みとなり、9月は前年を若干上回っている。
		その他レジャー施設 [アミューズメント]（職員）	来客数の動き	・客の流れが週末中心からある程度平日へ分散してきている。週末がそれほど忙しくならない代わりに平日に結構客が来るようになり、平均化されてきている。
		その他サービス [フィットネスクラブ]（マネージャー）	お客様の様子	・子供のスイミングレッスン、バレエ、空手などのスタジオレッスンでの来客数が、春先の東日本大震災の影響により秋口に集中している。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・今月は2度の3連休中、別荘の案内客が増加した。
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・受注計画に対して、ほぼ計画どおりに達成できている。近隣の地域の数字も同様である。9月末までの金利優遇制度も有利に働いている。		
変わらない		商店街（代表者）	お客様の様子	・秋祭り各地に人出はあるが売上にはつながらない。商店街のイベントで人出があっても買物をしない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街の夏のイベントは、前年よりも人出も多く参加店の売上も良い。
		一般小売店 [家電]（経営者）	お客様の様子	・全体的に落ち着いた穏やかな状況のなかにあり、商品の動きは緩やかである。家電製品も冬物商材は電気を使わない石油ストーブなど単価が安い小型の灯油器具に注目がいき、売上を維持していくのが厳しい。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・ここにきて客単価は若干下がっている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・今まで集客の要となっていた大型食品物産展や店外催事に陰りが見えてきている。今まで堅調に推移してきた食料品を始め、他商品群も軒並み前年割れとなっている。
		百貨店（店長）	お客様の様子	・残暑や台風といった外的要因もあり、秋物の売行きや来客数が悪い。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・節電関連品の売行きで一次的に売上は伸びたが、依然として回復傾向にない。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・食品は前年をクリアできているが、衣料品は9月は非常に良くなかったため、基本的にはまだ前年まではいっていない。

スーパー（統括）	来客数の動き	・台風12号、15号の襲来で、短いサイクルでの気温変動が大きく、衣食住ともに秋物の動向に苦戦を強いられている。特に、上旬のほぼ毎日、夕方のゲリラ豪雨で一気に客足が遠のき、ロスの拡大で利益面でもマイナス与件となった。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・暑い日が多いことが幾分かプラスになっている。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・台風と地震による影響で、昼間、商店街に客がなかなか来なくなっている。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・今月は予想以上に台風の影響による大雨や水害があり、また、残暑厳しい日も多く、秋物商材に対する客の購買意欲が減少しているために、来客数が減少している。
衣料品専門店（統括）	販売量の動き	・例年だと今ごろが一番客が動き、商品もそれなりに動くが、秋祭りも近いというのになかなか客の動きがつかめない。今年は客に購買意欲がないようである。
衣料品専門店（販売担当）	お客様の様子	・このところ低水準で推移しているが、今月はクレジットカードの利用率が極端に低くなっている。先行きに不安を抱えたまま買物はできないというような客の考え方が背景にある気がしている。ただ、ここ1週間は現金によるまとめ買いの客がちらほら出てきたので、それがどのように継続するか見守りたい。
乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・エコカー購入補助金終了後、新車の売上が低迷し、中古車も安価な車を選ぶ客が多くなってきている。そのため車検整備の比重が高くなり、同じ業界で価格競争が生じている。
乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・3か月前と比べて、新車、中古車併せて販売台数が横ばい状態である。来客数に関しては必要に迫られてどうしてもという客が来場して購入するくらいで、新規のユーザーがほとんどない。そのため悪い状態での現状維持が続いている。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・昼の営業に関しては天候や曜日で動きもみられるが、夜の営業は条件にかかわらず停滞している。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・9月は例年落ち込みの多い月だが、初夏のころの東日本大震災の影響があったときと同じように今年は例年以上に客の動きが悪い。夏のレジャーで資金を使いすぎたのか、夜の来客数が大幅に減少している。
スナック（経営者）	来客数の動き	・本当に景気が悪く、街中を歩く人がほとんどいないような状況である。これ以上悪くなりようがないところまで来てしまっている。
観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・7、8月の宿泊は好調に推移してきたが、夏休みも終わり9月に入った途端、落ち着いている。
都市型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・東日本大震災で低迷していた当地区にビジネスマンが戻りつつあり、稼働が多少上がってきている。ただ、近隣ホテルで震災後復旧しておらず運営が止まっているところもあるので、単純に今までであった需要分の客が当ホテルに流れ込んでいると考えられるため、変わらない。
旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・7月には大分旅行客も増えてきていたのですが、現在も状況は同じだが、春から夏に旅行ができなかった客の駆け込み依頼が増えているだけで、決して景気が良いわけではない。
通信会社（販売担当）	販売量の動き	・携帯電話業界では依然としてスマートフォンの販売が好調だが、廉価商品の販売数が伸びてきているため、消費には相当シビアになっているのがうかがえる。
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・仕事量にかなりの伸びが出てきているため、社員は労働時間が延びて負担も大きくなってきている。このような状況にもかかわらず社員の採用は控え、東日本大震災直後の人員減のままで、給与にも目立った変動はない。こうした現状では消費の伸びに期待できない。
通信会社（局長）	お客様の様子	・デジタルテレビ購入等の消費拡大の反動による家庭内消費抑制傾向もようやく一服感が出てきている。しかしながら景気が上向きと思わせるほどの変化には至っておらず、相変わらず販売には苦戦している。
通信会社（営業担当）	来客数の動き	・アナログ放送終了後8、9月はあまり大きな変化がない。
テーマパーク（職員）	来客数の動き	・東日本大震災の影響に加えて、台風などによる天候不順が続き、夏季繁忙期も好ましくない状況である。
ゴルフ場（副支配人）	来客数の動き	・いろいろなイベントをしているが、来客数はほぼ横ばいである。

	競輪場（職員）	お客様の様子	・来場者数、購買単価共にほとんど変化がみられない。
	美容室（経営者）	競争相手の様子	・美容院の過剰感があり競争が激しいため、客は単価の安い美容院に流れている。ただし、しっかり固定客のあるところは売上、来客数が常に変わらない。
	その他サービス〔清掃〕（所長）	それ以外	・北関東を中心に展開する量販店の薬品会社が開店し、近くにスーパーを含め同様の店舗が増えているが、エリア内の客が増えているようには見えず分散しているだけのようなので大きな変化にはつながっていない。
	設計事務所（所長）	お客様の様子	・上期最後の月だというのに全く受注がない。客の来場が少ないせいもあるが、イベントの成果も全く得られず厳しさを痛感している。
	設計事務所（所長）	販売量の動き	・4月以降、仕事らしい仕事の受注が無く極めて深刻な状態が続いたが、9月に入ってから仕事が入ってきた。景気が良くなったからではなく、たまたまそうなったからで、3か月前と比べて変わらない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・台風、猛暑、大雨と、天候不順は買物の心理にも悪影響を及ぼすのか、2度の3連休にもかかわらず街への人出は鈍い。
	商店街（代表者）	単価の動き	・運動会シーズンには毎年子供用のシャツとハーフパンツ等が良く売れたが、今年は今年の半分しか売れず、景気の悪さを実感している。
	一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・今月の前半は熱中症で人出は控えめであった。後半はいくらか陽気も良くなったので人が出始めたが、消費に影響はない。
	一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・客に勧めることができる身近な商品が今のところなく、苦戦している。
	百貨店（総務担当）	来客数の動き	・前年比で来客数が82%、売上は80%である。売場のレイアウトを変更し通路が広く明るくなったが、売場の坪数の変化による商品量の少なさに客が満足していないのか、来客数が減少している。当店はシニアからミセスの高年齢層が多いので、残暑や台風の影響で減少しているのか10月に入るまで不明である。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・当店の商圏の変化が影響していることもあるが、来店客の買上比率は高まっており、買上数量及び買上客数共に伸びている。しかし、9月に入り来客数が急に下降していることから、商圏の変化以外に客の消費行動を鈍らせるマインドの冷え込みが懸念される。
	スーパー（経営者）	お客様の様子	・客の買物の習慣が変わってきている。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・円高による製造関係の状況や東日本大震災の影響ではないのは分かっているが、なぜか9月の初旬から急に売上が落ちてしまった。競合店をみても同じような状況である。
	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・前年比では客が10%ほど増加していて売上も好調だが、前月比では悪くなっている。
	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・身近な客の活気が無い。工場関係の仕事があまり良くなり購買意欲も欠けている。また、財布のひもがかなり締まっている。
	住関連専門店（統括）	販売量の動き	・来客数は堅調に推移しているが、1人当たりの買上点数が減少傾向にある。
	住関連専門店（仕入担当）	来客数の動き	・東日本大震災による住関連品の特需が落ち着きつつあり、ペット用品、レジャー用品のマイナス傾向も続いている。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（従業員）	販売量の動き	・ガソリン販売量が前年比で約10%減少している。
	高級レストラン（店長）	販売量の動き	・ディナータイムの来客数が、東日本大震災以降、極端に減少している。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・特に夜間の来客数が減少している。
	都市型ホテル（支配人）	お客様の様子	・東日本大震災とその後の福島第一原子力発電所の事故により、当地方への観光客、行楽客が激減している。
旅行代理店（所長）	来客数の動き	・秋のシーズンを迎える時期だが、団体個人共に宿泊予約の動きが相当鈍い。	
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・あまりにも急激な円高になっていることによる影響が大きい。	
タクシー（経営者）	お客様の様子	・昼も夜も動きが悪く、前年同月比18%の減少である。	

		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・単価は落ちたものの、飲食店とのタイアップにより集客を図っている。ただ、2度の台風によるキャンセルは非常に大きかった。
		その他サービス 〔立体駐車場〕 （従業員）	お客様の様子	・3か月前と比べても来客数の動きが伸び悩んでおり、単価の動きは依然横ばいである。相対的に販売量も変わらないかこれから若干2%くらいマイナスに転じる動きがある。また、競争相手に関しても平日が少なく土日に集中するというパターンが固定化している状況は同じなので変わらない。
		設計事務所（経営者）	販売量の動き	・東日本大震災前に受注していた設計も完了してきており、新たな計画や実施設計が少ない状態が続いている。
		設計事務所（所長）	来客数の動き	・台風などの影響もあつてのことだが、今月も全く仕事の情報が無い。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故がやや落ち着きを見せ、北関東にも客の目が戻りつつあるが、まだ先行きがはっきりしないことから動きは鈍く、成約まで時間が掛かることが多い。
	悪くなっている	一般小売店〔衣料〕（経営者）	販売量の動き	・東日本大震災以来、観光客が少なくなっている。観光地なので客が来なくて困っている。
		スーパー（経営企画担当）	来客数の動き	・台風等の天候不順の影響もあつたが、来客数の減少傾向が続いている。
		家電量販店（経営者）	来客数の動き	・想定されたことではあるが、7月のアナログ放送停波後はテレビ需要が大幅に減少している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・9月前半の残暑、後半の台風などの天候不順により、県外の客の入りが大きく影響し、売上が前年同期比2割減となっている。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・宿泊者数、売上共に過去最低を記録し最悪の状態である。
企業動向関連	良くなっている	輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が前年比でまだ10%ほど少ないが、ほぼ戻りつつある。3か月前から比べても東日本大震災の影響が薄れてきて受注量は増加傾向にある。
	やや良くなっている	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・東日本大震災の影響による遅れをばん回するための自動車関連の動きも本格化してきている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・広告出稿は確実に増えてきている。前年同月と比べても10%は伸びている。
		社会保険労務士	取引先の様子	・自動車部品など生産が滞っていた分野が回復してきている。
	変わらない	食料品製造業（製造担当）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量、生産量はほぼ横ばいで変わらない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・自社体験工房の夏の繁忙期での一時的な営業増は除き、取引先の受注状況は依然低迷している。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・東日本大震災復興事業等、積極的に営業活動を行っているが、まだ受注の見通しが立たない。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先は海外15～16か国に自社工場を持っているが、今のところ、国内から現地生産への移行も変わっていない。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・先月と変わらず、小口試産等、多岐に渡る受注が入っている。周りの加工その他の製造関係会社も安定した状況が続いている。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・一部高額品が売れる傾向が戻ってきたが、数量の動く低価格品は動きが鈍く、大物は売れても全体の売上は前年比5～10%ダウンである。まだまだジュエリー全般は厳しい状況が続いている。地金価格の高騰で中古の買取は盛んである。
輸送業（営業担当）		取引先の様子	・取引のある冬物商材の家電、雑貨等の動きが例年より先行している。特に、節電の影響でエコグッズ、石油ストーブやヒートマット類の冬物節約グッズの物量が例年より目立って多い状況である。ただし、現状の円高で自動車関係の輸出産業が厳しい状態であり、全般的には例年の物量の確保になっている。	
金融業（役員）		取引先の様子	・県内の放射線汚染問題により、地元スーパーマーケットでは生鮮食料品や乳製品の地産地消の消費動向が急激に低下し変化してきている。	
	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	それ以外	・前年の例もあり、中旬過ぎまで続いた暑さのため、小売店では秋物、冬物への移行が遅れ、また夏物も伸びなかった。チラシ出稿量は99.8%で、依然として横ばい状態である。	

		司法書士	受注量や販売量の動き	・やや良くなっていくという期待を持っていたが、なかなかそういう方向に向かわない。むしろ少し下がり気味である。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き合い、受注量共に特段の変化はみられない。
やや悪くなっている		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・石油関連製品など仕入原材料が上がってきているのに、それを転嫁できる環境にない。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4～6月と比べると、1割ほど受注量や売上が減少している。年末に向けて自動車関係の仕事が増えてくる見込みだが、経営的にはあまりうれしくない仕事が増えるので、下手をしたら赤字になる。
		不動産業（管理担当）	取引先の様子	・取引先の清掃、設備管理の仕事が、契約の見直しで一部減少している。真っ先に見直される部門なので、売上減が厳しいとのことである。
悪くなっている		建設業（総務担当）	それ以外	・当月決算で受注額は前年比5%増である。しかし東日本大震災の影響で、工期延長の現場が何本が生じたため、現段階で売上が心配である。
		不動産業（経営者）	それ以外	・同業種で請負契約の解約があり、再契約の請負業務内容が非常に厳しいものとなっている。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（管理担当）	周辺企業の様子	・自動車関連企業の派遣要請が多くなっており、残業も増えている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・9月中旬から求人が急増している。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・自動車関連の部品、電子関連、住宅関連は非常に悪い。悪いといっても補充程度の資材関係の生産加工は見受けられる。サービス業はちょうど3か月前くらいの状態まで持ち直してきている。
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・仕事は出るが短期的で、頼まれたり断られたりで、売上が伸びない。
		求人情報誌製作会社（経営者）	求人数の動き	・円高の影響で、特に製造業は求人広告を出して募集をする企業はほとんどない。福祉、医療、サービス業のパートなどの求人広告は多少増加している。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・東日本大震災以降、景気はやや持ち直しているようではあるが、円高の影響が徐々に出てきているように見受けられる。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新しい求職者は減少してはいるが、今までいた求職者が就職して減っていく率が少なくなっている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・7月ごろまでは少なかった人員整理の情報が、8月から9月にかけて目立つようになった。当所管内では、印刷業の関連2企業で、9月末付で約100人の退職者が発生するなど、業績悪化による事業廃止、自己破産申請をする企業が増えてきている。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人をけん引する製造業において、円高による将来不安からか、正社員採用が減っている。契約社員採用、若年者へも嘱託雇用と同条件での採用といった、正社員より低い労働コストと有期の雇用といった形態が出始めてきている。
		学校〔専門学校〕（副校長）	求職者数の動き	・学校への求人数は低迷したままである。職種によっては東日本大震災からの復興に伴う求人数の増加も聞かれるが、例年以上に厳しい状況である。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・円高の影響から製造業における派遣、請負の雇止めにより新規求職者が増加した感触がある。
	悪くなっている			